

議 長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 30 年 2 月 20 日 13 : 30 閉会 平成 30 年 2 月 20 日 15 : 45
2 場 所	委員会室
3 出席委員	鈴木安次、小峰由久、小林達信、吉田克則、高縁 光、青砥與藏、大縄武夫
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議会事務局長 益子和憲、書記 松本静香
7 説明員	まち振興課長 金澤祐介、課長補佐兼農林振興係長 吉成知温、 商工観光係長 藤田 智
8 傍聴人	町議会議員 3 名
9 付議事件	第 1 まち振興課所管の委託事業及び補助金等について
10 議事の経過	<p>副委員長（小峰由久委員）開会 委員長（鈴木安次委員）あいさつ 第 1 まち振興課所管の委託事業及び補助金等について</p> <p>①補助金（カラー球根導入事業、ダリア切花生産出荷事業、新規導入林産物ブランド化支援事業） ②委託事業（埴町地域資源活用総合交流促進施設指定管理委託、本シメジ実証栽培委託） ③その他（森林再生事業の進捗状況等）</p> <p>委員長：まち振興課課長に①から③まで、まとめて説明を求める。 金澤まち振興課長及び吉成課長補佐及び藤田商工観光係長が資料に基づき説明する。 委員長：質疑はあるか。 吉田委員：埴町は山水花のまちづくりをすすめているところであるが、29年度で事業完了となるカラーに代わるものを模索しているのか。 課長補佐：新たな切花については現在のところ予定していない。今はミニカラーが流通し、現在作っているカラーの値段が安くなっている。ダリアはまだ単価が高い。この地域は枝ものを遊休農地等で栽培するのも一つの方策かもしれない。しかし、枝ものは出荷までの年数がかかる。 青砥委員：補助事業の目的は何なのか。農家がこの地域で利益が上げられること。さらには作付者が増えていくことである。この地域でいいと思うものは時間をかけてもいいと思う。枝ものもいいと思うなら時間がかかってもいいと思う。若者が事業に取り組めるような方向にしていければよいと思う。 委員長：それは、その通りですね。（補佐：そうですね。） 吉田委員：青山フラワーマーケットでのオンライン販売の経費は町、生産者、消費者のいずれが負担しているのか。例えば1本あたり110円は生産者に入る金額なのか。 課長補佐：経費について、去年は1箱3,800円位で客が買うことになります。1箱10本で110</p>

円となり生産者に1,100円が入る。残りの経費2,700円は青山マーケットに入る。宅配料金も含まれる。

吉田委員：町からの補助金は青山フラワーマーケットには支払っていないのか。

課長補佐：補助金は支払っていない。

委員長：生産者をいかに増やすかが今後の課題である。また、湯遊ランドダリア園についても入園料を払って見たいとなるような管理が必要であると思うが、町としてはどのように考えているか。

まち振興課長：去年は肥料等の管理体制がまずかった。今後はまち振興課のダリア指導員や地域協力隊にダリア園へ積極的に行ってもらい管理や整備体制を整えていく考えである。また、生産者を増やすために、若者だけではなく会社を退職した方が栽培できるような指導をしていくことも考えている。

課長補佐：塙のダリアとして出荷希望であれば、生産者の範囲をJA東西しらかわ管内に広げ募集していきたい。また、今後は通年で出荷できるようハウス栽培を検討していきたい。

去年のダリア園は肥料設計が全くなっていなかった。その点も含め1から作り直すため徹底して指導していかなければならない。

委員長：ダリアの栽培マニュアルを作成し渡すべきである。町の指導員も町内の生産者やダリア園も直接指導をするべきである。販売方法についてJAを通さずに直接できる方法も考えていくべきである。生産者は利益が上がれば増えてくる。

課長補佐：JAもしっかりやっている。生産者が入荷時間を守っていないこともある。時間により価格が変動する。生産者協議会でも勉強会を開いていきたい。

委員長：花は競りに係る前に売るシステムで野菜と違うので、そのことを指導していくしかない。

吉田委員：地域資源活用指定管理委託料の平成29年度230万円とダリア園入園料3,759,200円で合計約600万円はすべて振興公社に入るのか。詳細について説明を求める。

商工観光係長：地域資源活用指定管理委託料の平成29年度は年度途中なので、平成28年度で説明する。委託料330万円と入園料約300万円、合計で約630万円になる。委託料は管理するための人件費、交通費、古民家等の水光熱費、備品、修繕費その他の費用はすべて委託料と入園料で支払うことになる。さらに湯遊ランドで販売しているダリアの球根販売料が約153万円も含めて収入合計約786万円となる。経費は全部で年間約1,000万円かかっている。収支差額は振興公社の持ち出しとなっている。(まち振興課長が施設管理協定により補足説明する。)

吉田委員：新規導入ブランド化支援事業補助金で補助額100万円(国費1/2)となっているのは、事業費が200万円ということか。補助残100万円の財源は。

課長補佐：説明不足であった。100万円は事業費であり補助金は50万円であり、残りの50万円は町負担である。

青砥委員：この補助事業の目的を町民が見たら驚くと思う。交付金は何のために使うのか。農家の利益が出るための研究をすることで予算を使うことではないのか。球根を買うための目的ではないと思う。目的がない。目的がない中で事業が展開されることはおかしいことである。少人数のために交付金を使ったに過ぎないことになる。考え方を直してほしい。(回答はできない。)

大縄委員：カラーに代わる花木と言っていたが、これからやって儲かるのか。茂議員に聞く。

鈴木茂議員（傍聴）：儲かる可能性もある。年数のかかるものであるため大変である。いろいろなものがあるがその中で有望なものもあるが、株の場合は3年から5年かかる。

大縄委員：今後視野に入れていくことになるのか。

課長補佐：遊休農地が年々増えていくと思われる。そこに、花木や食べられる木の実（くるみ）、国産クルミは国内で2割くらいのシェアである。簡単に殻が割れるクルミがある。10年くらいかかるがこのようなものを植え付けると将来利益が出ることになる。昨年からはまったヨモギも収益が上がっている。遊休農地の解消になる。

委員長：私も10年前にクルミを植えたことがある。クルミの産地は寒いところでここでは無理である。山間地ならどうか。岩手県、長野県が産地である。事前調査をし、将来を見通した取り組みが必要である。

小峰委員：地域おこし協力隊は、作業員を2名雇用しているように思える。町おこしをするために町民とのふれ合う仕事をあたえ、町の活性化の一助を担う仕事をしてもらいたい。

まち振興課長：地域おこし協力隊は県内各地に来ている。その地域各々でどのような目的で、どのような事業を行っていくのか。今回来ている2名は、埴町のダリアをPRすることを目的にお願いしている。ダリアの生産からPRまでしている。町民と交流し埴町に溶け込んでいてもらいたい。男性は、ふくしま駅伝の選手や剣道をやるなど交流している。

高縁委員：退職者にダリアづくりをさせるようにしたらいいと思う。全部ではなくポイントを決めて。若い人では難しいと思う。

まち振興課長：ダリアづくりのマニュアルを作成し、それを見ればある程度生産できる体制を作っていくことを早急に考えていきたい。

委員長：マニュアルの作成も最初は入門編から作ってもらいたい。

大縄委員：ふくしま森林再生事業は町山林面積に対しどのくらい進んでいるのか。（進捗率）

課長補佐：町全体での率はつかんでいない。整備面積は現在300haである。全地域からの申し込みはまだない。同意が得られたところから優先的に事業を行っていく。

大縄委員：この補助事業はいつまでなのか。

課長補佐：はっきり言えないが、まだまだ福島県の山林は整備しなければならないと思う。平成32年度以降も続くであろうと思われる。平成37年度からの森林環境税の使い方も国でどのようなになるかわからない。森林環境税をあてにした森林整備はできない。

委員長：そのほかなければこれで質疑を閉じたい。北原の現地に移動する。

（説明員退席）

北原旧こんにやく試験地跡地で改修工事中の竹活用施設の工事状況を現地視察した。

委員長：これで会議を終わる。

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

平成 年 月 日
經濟常任委員長